

文科學術談話會々誌 第七號

目 次

講

日本の傳説に就いて

文科二年 川上、上田、倉
田、横井、山田 一

研

シヨウベンハウエル、ラスキンの女子問題に對いての

所感（承前）

贊助員 千葉安良 一七

文

（漢詩）

驟雨他五題

（國文）

函嶺紀行

日光より友へ

露

郊遊會

苑

(和歌)
目を閉ぢて.....
南下北上.....
無題.....
題いろく.....

柴舟三三八
河崎なつ三九
岡田ひさ四二
岡田ひさ四三

紹介

英語に興味を持つ方々へ.....
岡田みつ四九

偶感

秋が來た.....
そやろありきて.....
文科三年ふたば一
文科四年なにがし六二

彙報

第廿六回文科學術談話會.....
第六回會計報告.....
六五

交詢

母校だより.....
卒業してよりの三年と八ヶ月.....
贊助員湯川たき七〇
六六

文

第廿六回文科學術談話會.....
第六回會計報告.....
六五

文科學術談話會々誌 第七號

講演

○日本の傳説に就て

文科二年 川上 上田 横井 山田 倉田

私は日本の傳説に就てお話致します。

傳説とは實際の事實と想像から造り上げられた物とが合して物語となつた物でございます。そして一面には歴史であつて又一面には空想でございます。此處にお話致しますのは日本に於ける傳説を概括的にお話申上げやうと思ふのでござります。即ちあるやうな無いやうな夢の様に淡い神秘めいた此の傳説といふものに私共は幼いときからどんなに種々な感情をそゝられたでせう。大きく成つた今でも幼い時に祖父様祖母様から聞いた話を思ひ出しますと疲れきつた現實の心も靜に落付いてしんみりとした穏さと底知れぬ懷しさとを感じるのでございます。

諸外國に在つては既に研究せられた著書も數多く有りまして此の研究の結果が文學上教育上影響し